

Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート

リリース 2.6.0.4

NetBackup 52xx

Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート

マニュアルバージョン: 2.6.0.4

法的通知と登録商標

Copyright © 2014 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、および NetBackup は、Symantec Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のまま提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	NetBackup Appliance 2.6.0.4 の機能、拡張機能、 および変更	5
	NetBackup 52xx のハードウェアの機能	5
	NetBackup Appliance 2.6.0.4 の新機能、拡張機能、および変更につい て	10
	NetBackup Appliance 2.6.0.4 の新機能、拡張機能、変更	10
第 2 章	NetBackup Appliance の互換性	12
	NetBackup Appliance 2.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについ て	12
	ソフトウェアリリース形式について	13
	NetBackup Appliance リリースの互換性	13
	NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて	15
	NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知	16
第 3 章	操作上の注意	17
	NetBackup Appliance 2.6.0.4 の運用上の注意について	17
	NetBackup Appliance 2.6.0.4 の操作上の注意	18
	NetBackup Appliance の一般的な注意	20
	NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意	21
	インストールと構成の注意	22
	アップグレードとロールバックの注意	23
	VMware に関する注意事項	23
	国際化とローカライゼーションの注意	24
	NetBackup サポートユーティリティについて	25
	NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)	25
	NetBackup サポートユーティリティ (nbsu)	27
	その他の利用可能なサポートについて	27
	ログファイルの使用について	27
付録 A	リリース内容	30
	現在のリリースの内容について	30
	NetBackup Appliance 2.6.0.4 のリリース内容	31

付録 B	関連ドキュメント	33
	NetBackup Appliance のマニュアルについて	33

NetBackup Appliance 2.6.0.4 の機能、拡張機能、 および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 52xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.0.4 の新機能、拡張機能、および変更について](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.0.4 の新機能、拡張機能、変更](#)

NetBackup 52xx のハードウェアの機能

このリリースは、アプライアンスの **52xx** ハードウェアアーキテクチャをサポートします。これらのアーキテクチャは同じソフトウェアを実行するので、次のどのモードでも構成できます。

- アプライアンスのマスターサーバー
- アプライアンスのマスターサーバーおよびメディアサーバー
- アプライアンスのメディアサーバーのみ

すべてのアプライアンスアーキテクチャは、次の特徴および機能をサポートします。

- デュアルプロセッサ、クアドコア、Intel ベースのシステム
- それぞれに、いくつかのホットスワップ外部ドライブがある
- 外部テープドライブをサポートするファイバーチャネルの接続性
- 基本構成は、ギガビットイーサネットネットワークをサポートする
- 高性能ハードウェア RAID コントローラ

- Intel X520 SR2 10 GB イーサネットカードがシステムの標準またはオプションになっている
- それぞれが、コードベースとして NetBackup を使用する
- Linux オペレーティングシステム (シマンテック社提供)
- それぞれが、NetBackup Appliance ソフトウェアの最新版を実行できる
- それぞれが、マスターサーバーおよびメディアサーバー上のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージをサポートするMSDP は 52xx アプライアンスの利用可能な最大ストレージ容量まで提供します。

NetBackup 5220 アプライアンスには、フォーマット済み総ストレージ容量 4 TB を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 5230 アプライアンスには、1 TB と 3 TB のストレージ容量で使用できる 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。1 TB のディスクは、4 TB のフォーマット済み総ストレージ容量を提供します。3 TB のディスクは、14 TB のフォーマット済み総ストレージ容量を提供します。

NetBackup 5220 と 5230 には、追加ストレージとしてシマンテックストレージシェルフを接続できます。ストレージシェルフは 2 TB または 3 TB のディスクドライブをサポートできますが、シェルフ内のすべてのドライブは同じ容量にする必要があります。

表 1-1 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5220 アプライアンスで利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-1 NetBackup 5220 のストレージ容量オプション

アプライアンスのストレージドライブ (TB)	アプライアンスの利用可能ストレージ容量 (TB)	ストレージシェルフドライブ (TB)	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ 1 つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ 2 つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ 3 つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ 4 つの利用可能ストレージ容量 (TB)
1	4.55	2	24	28.55	52.55	*	*
1	4.55	3	36	40.55	76.55	112.55	148.55

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

表 1-2 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5230 アプライアンスで利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-2 NetBackup 5230 のストレージ容量オプション

アプライアンスのストレージドライブ (TB)	アプライアンスの利用可能ストレージ容量 (TB)	ストレージシェルフドライブ (TB)	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ1つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ2つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ3つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ4つの利用可能ストレージ容量 (TB)
1	4.55	2	24	28.55	52.55	*	*
1	4.55	3	36	40.55	76.55	112.55	148.55
3	13.65	2	24	37.65	61.65	*	*
3	13.65	3	36	49.65	85.65	121.65	157.65

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

表 1-3は、必要なストレージ容量の達成に必要なソフトウェアのバージョンのレベルを示します。

表 1-3 最大ストレージのための NetBackup Appliance ソフトウェアの依存関係

NetBackup Appliance ソフトウェアのバージョン	接続されたストレージシェルフの最大数	最大ストレージ容量 (接続されたストレージシェルフを含む)	最大 MSDP ストレージ容量
2.5 - 2.5.4	2	76 TB	64 TB
2.6.0.1	2	86 TB (14-TB 5230 アプライアンスを含む)	86 TB*
2.6.0.2 以降	4	158 TB	158 TB*

*最適なパフォーマンスのために、MSDP パーティションをアプライアンスのストレージと拡張ストレージに分割しないでください。シマンテック社は、パフォーマンス最適化のために、MSDP パーティションを拡張ストレージに置くことを推奨します。

NetBackup 5230 のハードウェアの機能

次のリストに、5230 アプライアンス専用の機能を示します。

- 重複排除エンジンは、最大 100 分の 1 のストレージ削減を実現します。クライアント側のプラグインは、同様のレベルの帯域幅削減を提供します。
- フィンガープリントや RAID の冗長性のため、全体のストレージ能力はディスクサイズと合計ディスク数の単純な掛け算にはなりません。

NetBackup 5230 アプライアンスは、ストレージシェルフを追加することなく、**4 TB (1 TB ドライブを使用) または 14 TB (3 TB ドライブを使用)** のストレージを提供します。**5230** アプライアンスは、**Symantec Storage Shelf** なしの状態、または **1 つまたは 2 つの Symantec Storage Shelf** 付きの状態 で出荷されます。新たなストレージシェルフを **2 つ**まで追加できます。各ストレージシェルフには、**24 TB (2 TB ディスクを使用) または 36 TB (3 TB ドライブを使用)** の容量があります。**4 つ**のストレージシェルフを接続した場合の **5230** アプライアンスの最大容量は **158 TB** です。

表 1-2 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に **NetBackup 5230** アプライアンスで利用可能なすべてのストレージ構成を示します。

- 冗長な電源モジュールとファンモジュールをサポートします。**5230** はホットスワップ対応のディスクモジュールと電源モジュールもサポートします。
- システムディスクドライブは、シャーシの外部にあります。これらのドライブは、シャーシを開いたり、システムをシャットダウンしたりすることなくホットスワップできます。この機能は、**NetBackup 5220** からの機能強化です。
- 帯域外の管理ネットワークインターフェースを、独立した形で提供します。ネットワークを経由してアプライアンスの電源オン、電源オフ、リセットをリモートで行えます。**KVM over IP** 経由でのアプライアンスのリモート構成とリモート管理をサポートします。**SNMP** トラップをサポートし、自動的に警報を報告します。帯域外の管理チャネルを経由したディスク情報の報告をサポートします。
- **RAID 1 と RAID 6:**
 - アプライアンスシステムディスク: **RAID 1 (ソフトウェア RAID)**
 - ストレージシェルフのデータストレージディスク: **RAID 6**
- **NetBackup 5230** アプライアンスは、**1、4、または 5 枚の FC HBA カード**をあらかじめ取り付けられた状態で発注できます。**1 つ以上**のストレージシェルフを使用する場合は、**SAS RAID カード**をあらかじめ取り付けられた状態で発注できます。**10 Gb** イーサネットカードの発注と出荷時取り付けもできます。
- 背面パネルのポート:
 - **PCI ライザーアセンブリの 1 つ**に装着されるカードにある **2 つの SAS** ポート。**SAS** ポートは、ストレージシェルフに接続されます。
 - **1 つの 1 GB/秒 IPMI** 管理ネットワークポート。
 - **1 つの VGA** ポート。
 - **3 つの USB 2.0** ポート。
 - **リンクおよび動作 LED** 付きの **4 つの 1GE** ネットワークポート。
 - **リンクおよび動作 LED** 付きの **2 つの 10GE** ネットワークポート。

- 6 つの PCI スロットにインストールできるのは、1 つの SAS カードと 1 つの 10 GB イーサネットのみです。他のスロットは、追加のファイバーチャネル接続のために使用できます。

表 1-4 に、NetBackup 5220 と NetBackup 5230 アプライアンス間の違いの概要を示します。

表 1-4 NetBackup 5220 アプライアンスと NetBackup 5230 アプライアンスの比較

パラメータ	NetBackup 5220	NetBackup 5230
コア	4	6
キャッシュ (MB)	12	15
RAID キャッシュ	512 MB	1 GB
速度 (GHz)	2.4	2.0
ターボ速度 (GHz)	2.66	2.5
QPI 速度 (GT/秒)	5.86	7.2
システムメモリ (GB)	96	128
メモリ構成 (DIMM)	8 GB x 12	8 GB X 16
熱量 (ワット)	80	95
データ保持	1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニット	フラッシュとスーパーキャパシタを搭載する 2 つのメンテナンスフリーのバックアップユニット (MFBU)
PCI アドインカードスロット	5	6
オンボード 10 GB イーサネットポート	0	2
PCI アセンブリへの追加 10 GB イーサネットカード	可	可
PCI アセンブリへの追加 1 GB イーサネットカード	可	不可

両方のアプライアンスのハードウェアアーキテクチャについては、『NetBackup Appliance と Symantec Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup Appliance 2.6.0.4 の新機能、拡張機能、および変更について

多くの新機能に加え、このリリースでは、NetBackup Appliance の以前のリリースからの問題点や改善点に対する多くの拡張機能を提供します。このリリースの NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更についての情報は、この章の以降のセクションで見つけることができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。これらの問題の多くは、Salesforce.com (SFDC) の形式で文書化されているお客様固有の問題に関するものです。このリリースに組み込まれた修正の多くは、個別のエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用できます。EEB は、NetBackup アプライアンスソフトウェアの以前のバージョンにおけるお客様固有の問題に対処するために作成されました。このリリースに含まれているエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドルのリストは、このドキュメントの付録「リリース内容」にあります。

NetBackup 7.6.0.4 は、NetBackup Appliance 2.6.0.4 リリースによりインストールされた NetBackup ソフトウェアのバージョンです。NetBackup 7.6.0.4 の新しい機能、拡張および修正については、シマンテック社のサポート Web サイトの文書 NetBackup 7.6.0.4 リリースノートに記載しています。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7450>

NetBackup Appliance 2.6.0.4 の新機能、拡張機能、変更

次のリストに、NetBackup 52xx Appliance 2.6.0.4 リリースの新機能、拡張機能、および変更を示します。

- NetBackup アプライアンス Web コンソールは現在、デフォルトポート 443 で HTTPS を介してのみ利用できます。HTTP の 80 番ポートは無効にされています。Web コンソールにログインするには、<https://appliance-name> を使用します。appliance-name はアプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) で、IP アドレスになる場合もあります。
- NFS と CIFS のクライアントインストールメディアの共有は、NetBackup Appliance 2.6.0.4 バージョンではセキュリティの理由からデフォルトで無効になっています。NetBackup Appliance のシェルメニューで、Settings > Share ClientInstall Open コマンドを使ってクライアントの共有を有効にできます。

- このリリースではセキュリティを高めるため、デフォルトのパスワード暗号化アルゴリズムが更新されています。この変更は既存のパスワードには影響しません。更新された暗号化アルゴリズムを有効にしたい場合は、パスワードを変更すると、自動的に新しいアルゴリズムに切り替わります。
- アプライアンスのセキュリティを高めるため、NetBackup アプライアンスのパスワードポリシーが更新されています。NetBackup アプライアンス 2.6.0.4 以降、パスワード履歴のサイズは 7 に設定されています。アプライアンスは、パスワード履歴を使って古いパスワードを追跡します。パスワード履歴は各ユーザーに固有のものでパスワードハッシュが含まれます。ユーザーは履歴に格納されているパスワードを再利用できません。
- CIFS 共有の `incoming_patches` と `incoming_plugins` は、このリリースからそれぞれ `incoming_patches` と `incoming_plugins` に名前変更されています。
- 2.6.0.4 では、アプライアンスの電子メール通知のデフォルトの `from` アドレスが、`admin@appliance_hostname` に変更されています。
- このリリースから、Internet Explorer 8.x は NetBackup アプライアンスのサポート対象の Web ブラウザではなくなりました。
サポートされているブラウザを確認するには、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』の「アプライアンスによってサポートされる Web ブラウザ」のセクションを調べてください。

NetBackup Appliance の互換性

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance 2.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて](#)
- [ソフトウェアリリース形式について](#)
- [NetBackup Appliance リリースの互換性](#)
- [NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて](#)
- [NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知](#)

NetBackup Appliance 2.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて

NetBackup Appliance 2.6.1 へのアップグレードは、早ければ NetBackup Appliance 2.5 からサポートされます。ただし、NetBackup Appliance 2.6.0.4 で紹介された機能の一部は NetBackup Appliance 2.6.1 GA リリースにはありません。動作の違いは、バグ修正および一部の機能に限定されます。

適切なアップグレードパスを判断するために次のアップグレードのシナリオを確認してください。

- **NetBackup Appliance 2.6.0.3** 以前を実行し、**2015 年の第一四半期**までにバージョン **2.6.1** にアップグレードしない場合は、バージョン **2.6.0.4** にアップグレードして、最新のバグ修正と互換性機能を活用することをお勧めします。このシナリオでは、サポートされる NetBackup Appliance 2.6.0.4 からのアップグレードパスは **2015 年の第一四半期**に利用可能になる NetBackup Appliance 2.6.1 **メンテナンスライン** (三重ドット) のリリースになります。シマンテック社は、ソフトウェアの **RTM (released to manufacturing)** 版がリリースされたときに、推奨アップグレードパスを提供するメンテ

ナンスリリースを公表します。更新情報については、定期的に次の技術メモを確認してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH225488>

- NetBackup Appliance 2.6.0.3 以前を実行し、2015 年の第一四半期までにバージョン 2.6.1 にアップグレードする場合は、使用環境にバージョン NetBackup 2.6.0.4 メンテナンスリリースをインストールしないことをお勧めします。

ソフトウェアリリース形式について

さまざまなレベルでの NetBackup のリリースを利用できるようにすることで、シマンテック社はお客様のニーズに対応するというポリシーを順守しています。次のリストで、さまざまなリリース形式と、それに対応するバージョン番号付与の仕組みについて示します。

NetBackup Appliance 製品ではこれらのリリース形式と番号付与の仕組みを使います。

- メジャーリリースは、一連のリリースのうち最初のリリースです。この形式のリリースには、多くの新機能や拡張機能が含まれます。
- マイナーリリースは、メジャーリリース番号の後にドットを付けた番号のリリースです。たとえば、2.6 のようになります。このリリース形式の要件は、メジャーリリースとほぼ同じです。メジャーリリースよりも小規模な新機能や拡張機能が含まれます。
- ソフトウェアリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを 2 つ付けた番号のリリースです。たとえば、2.6.1 のようになります。このリリース形式では、いくつかの新機能や拡張機能、および多くの製品の修正が含まれています。
- メンテナンスリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを 3 つ付けた番号のリリースです。たとえば、2.6.0.2 のようになります。このリリース形式は主に、メジャー、マイナー、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発された修正から構成されています。このリリース形式には、いくつかの新機能や拡張機能も含まれます。

メモ: このトピックでは、例として NetBackup Appliance バージョン 2.6.1 を使います。NetBackup Appliance のこのバージョンは、このドキュメントの発行時にはありません。

NetBackup Appliance リリースの互換性

NetBackup Appliance を使用すると、既存の NetBackup 環境に、アプライアンスをメディアサーバーまたはクライアントとしてすばやく追加することができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup の NetBackup Appliance との互換性については、シマンテック社のサポート Web サイトの次の技術メモを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH136970>

Symantec NetBackup は、環境内のマスターサーバーが、同じ環境内のメディアサーバーおよびクライアントのバージョンレベルと同じかそれ以降になっているよう常に管理されています。NetBackup 環境全体を最新のメンテナンスリリース (ドット 3 つ) を使用して最新に保つことをお勧めします。ただし、NetBackup ではクライアントおよびメディアサーバーがマスターサーバーと異なるメンテナンスリリースでも稼動する環境の柔軟性を提供します。たとえば、マスターサーバーで稼動中のバージョンが 2.6.0.1 (7.6.0.1) である環境の、メディアサーバーまたはクライアントのバージョンを 2.6.0.2 (7.6.0.2) にアップグレードすることが可能です。

NetBackup カタログがマスターサーバーに存在するため、マスターサーバーはカタログバックアップのためのクライアントであると見なされます。NetBackup の構成にメディアサーバーが含まれている場合、マスターサーバーと同じバージョンの NetBackup を使用してカタログバックアップを実行する必要があります。サポートしているバージョン混在については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

p.13 の「ソフトウェアリリース形式について」を参照してください。

表 2-1 に、現在の NetBackup Appliance 2.6 の製品ラインでサポートされるさまざまな互換方式を示します。カッコ内の数は、NetBackup Appliance ソフトウェアの特定のバージョンに適用される基本の NetBackup のバージョンです。

表 2-1 NetBackup Appliance 2.6.0.4 リリースの互換性

NetBackup Appliance のマスターサーバーバージョン	NetBackup Appliance のメディアサーバーバージョン	NetBackup クライアントバージョン
2.6.0.x (7.6.0.x)	2.6.0.x (7.6.0.x)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
2.6.0.x (7.6.0.x)	2.5.x (7.5.0.x)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
2.6.0.x (7.6.0.x)	2.5 (7.5.0.2)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
2.6.0.x (7.6.0.x)	2.0.x (7.1.0.x)	7.1、7.1.0.x

すべての NetBackup 52xx アプライアンスは NetBackup Appliance バージョン 2.6.0.4 にアップグレードできます。

メモ: アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、NetBackup Appliance 2.6.0.4 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 製品ラインにアップグレードする必要があります。

NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて

ソフトウェアの更新リリースが利用可能なときは、インストールして最新の製品機能と修正が確実に含まれるようにすることが推奨されます。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするとき、更新リリースはオペレーティングシステム、NetBackup、すべてのアプライアンスインターフェースの更新バージョンをインストールすることがあります。すべてのサービスはアップグレードが始まると自動的に終了し、それからすべての更新が適用された後で自動的に再起動されます。

メモ: アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、NetBackup Appliance 2.6.0.4 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 製品ラインにアップグレードする必要があります。

システム停止時間を最小化するため、アプライアンスのアップグレードは前もって計画することが推奨されます。

以下に、アプライアンスソフトウェアのアップグレードをどのように計画して実行する必要があるのかについて説明します。

- 常にシステムの動作状態が最も低いときにアップグレードをスケジュール設定します。アップグレードを開始する前にすべてのバックアップとリストア操作を中断することが推奨されます。
- ソフトウェアの更新を始める前に、接続が切断されないようにするための対策を取ることが推奨されます。デバイスの構成に使用するコンピュータは、スリープ、シャットダウン、電源の遮断の動作をしないように設定してください。そのようにしないと、ネットワーク接続が失われます。インストール中に接続が失われると、操作は失敗します。
- アプライアンスのマスターサーバーは常に、一緒に使われるあらゆるアプライアンスメディアサーバーと同じかそれ以降のバージョンである必要があります。このルールの唯一の例外は、シマンテック社がメジャー、マイナー、ソフトウェア更新のあらゆるリリースに対してメンテナンスリリースを提供している場合です。メンテナンスリリースのバージョン番号は 4 つの数字 (2.x.x.x) で識別されます。
- アプライアンスをアップグレードするときは、アプライアンスで利用可能なソフトウェアの更新のみを使う必要があります。アプライアンスソフトウェアの更新は、アプライアンス、NetBackup、オペレーティングシステムのコンポーネントの更新から成っている完全なパッケージです。シマンテック社は任意のコンポーネント個別のアプライアンスのアップグレードはサポートしません。
- アプライアンスマスターサーバーは、必ずアプライアンスメディアサーバーをアップグレードする前にアップグレードする必要があります。

- NetBackup Appliance 2.5.x からこのバージョンにアップグレードするときに、メディアアサーバー重複排除プール (MSDP) は変換の完了に 13 % の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- 2.5.x から 2.6 製品ラインへのアップグレードを完了するにはおよそ 3 時間かかりますが、環境によってはそれ以上かかることがあります。その間にアプライアンスが数回再起動することがあります。これは正常な動作です。
- アップグレードを開始したら、完了するまで実行する必要があります。

メモ: アップグレードを中止しようとはしないことが推奨されます。中止した場合、予想外のシステム動作を経験することがあります。たとえば、サービスの再起動中にアップグレードが中止されると、すぐにバックアップが失敗することがあります。この動作が予想どおりですが、システムの他の部分が影響される可能性もあります。

NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知

NetBackup Appliance の製品には、シマンテック社が帰属を明示する必要があるサードパーティのソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。ソフトウェアに含まれる使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権の表記およびライセンスについては、次の Web サイトにある『Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』ドキュメントに記載されています。

<http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/>

操作上の注意

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance 2.6.0.4 の運用上の注意について](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.0.4 の操作上の注意](#)
- [NetBackup Appliance の一般的な注意](#)
- [NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意](#)
- [インストールと構成の注意](#)
- [アップグレードとロールバックの注意](#)
- [VMware に関する注意事項](#)
- [国際化とローカライゼーションの注意](#)
- [NetBackup サポートユーティリティについて](#)
- [ログファイルの使用について](#)

NetBackup Appliance 2.6.0.4 の運用上の注意について

この章では、NetBackup Appliance 2.6.0.4 の運用上、付属マニュアルの他の箇所では文書化されない可能性のある重要な点について説明します。この文書はシマンテック社のサポート Web サイトで公開されたもので、NetBackup Appliance 2.6.0.4 の GA リリース後更新される場合があります。そのため、次のリンクを参照して、最新のリリース情報を確認することをお勧めします。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7646>

NetBackup Appliance 2.6.0.4 では NetBackup 7.6.0.4 ソフトウェアがインストールされるため、NetBackup 7.6.0.4 に適用される運用上の注意は、NetBackup Appliance

2.6.0.4にも当てはまります。NetBackup の運用上の注意については、シマンテック社のサポート Web サイトの『Symantec NetBackup 7.6.0.4 リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7450>

NetBackup Appliance 2.6.0.4 の操作上の注意

メモ: 以前のリリースの操作上の注意に詳しい方は、このセクションのこのリリースに関する新しい内容のみを確認してください。このドキュメントの付録「リリース内容」で、このリリースで解決された問題を確認してください。

メモ: このセクションに記載されている注意事項および既知の問題は以前のリリースにも該当することがあります。

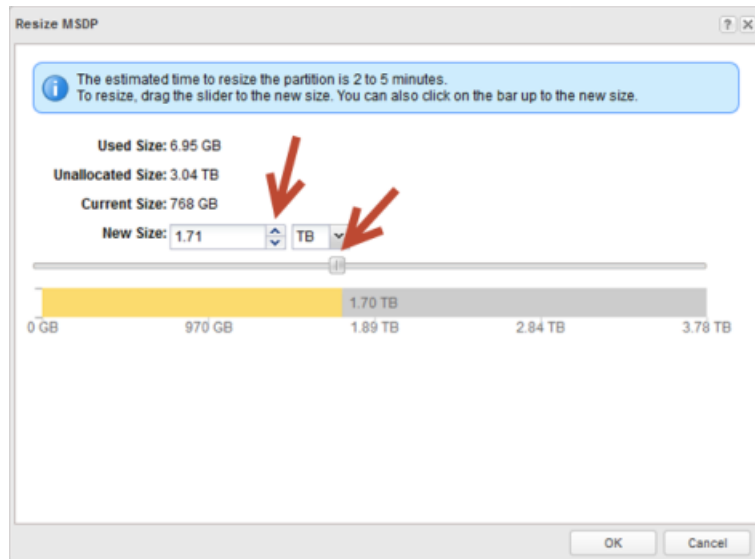
次のリストに、このリリースで新たにドキュメントに追加された注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスに NetBackup クライアントのアドオンパッケージをインストールすると、NetBackup Appliance の Web コンソールには不正な [アップグレード後のバージョン (Version after upgrade)] が表示されます。クライアントパッケージのインストールはアプライアンスのソフトウェアバージョンに影響しません。ただし、Web コンソールは NetBackup バージョンをアップグレード後のバージョンで表示します。
- 複数のセッションからのアプライアンスのユーザーを同時に作成すると、ユーザー作成が失敗することがあります。この問題が起きた場合は、失敗したユーザーのすべてについてユーザー作成を再試行します。
- Settings > Alerts > Acknowledge Errors コマンドおよび Settings > Alerts > ClearAcknowledgedErrors コマンドは、場合によっては無効なユーザー入力を受け入れます。これらのコマンドのいずれかを使った後、Settings > Alerts > ShowAcknowledgedErrors コマンドを使用した確認済みのエラーで何も更新されていないことを確認します。
- アプライアンスの再起動中に、オペレーティングシステムがシャットダウンプロセスの最終段階でハングアップする可能性があります。アプライアンスコンソールに表示され、IPMI サブシステムを通して確認できる最後のメッセージは次のとおりです。

Please standby while rebooting the system.....

この問題が起きた場合は、安全のためにシステムの電源をオフにし、オンに戻してから再起動を完了します。

- チェックポイントへのロールバックに **NetBackup アプライアンス Web** コンソールを使用している場合は、操作によっては正しくロールバックしないことがあります。この問題を避けるには、チェックポイントへのロールバックに **NetBackup Appliance** のシェルメニューを使用してください。
- **NetBackup アプライアンス Web** コンソールからストレージパーティションのサイズ調整をするときは、次の図に示すように、上矢印と下矢印または、水平スライドバーを使用して新しいサイズを選択します。



ただし、サイズの値は2つの方法で異なることがあります。できるかぎり正確にするため、新しいパーティションサイズを選択には上矢印と下矢印を使用します。

- **NetBackup アプライアンス Web** コンソールからのアプライアンスの初期構成中に、ストレージ構成では **AdvancedDisk** パーティションに **4 GB** 以上の値が許容されます。ただし、**4 GB** のパーティションは許容された設定ではありません。**4 GB** を選択すると、アプライアンスのセットアップは失敗します。正常な構成のためには、**AdvancedDisk** のパーティションサイズを **5 GB** 以上に設定します。
- **ManageEngine** または **Wireshark** のようなネットワークプロトコルアナライザを使用し、アプライアンスに **SNMP** を構成している場合、アプライアンスの **SNMP** トラップの[経過時間(TimeTicks)]フィールドは正しくなりません。
- 断続的なタイムアウトの問題は、**NetBackup Appliance** のシェルメニューを通して **LDAP** またはローカルユーザーを追加するときに発生する可能性があります。この問題が起きた場合、数分間待ってから再試行してください。

- 断続的なタイムアウトの問題は、**NetBackup Appliance** のシェルメニューで **NetBackupCLI** コマンドを使用しているときに発生する可能性があります。この問題が起きた場合、数分間待ってから再試行してください。
- **NetBackup** アプライアンス Web コンソールの[監視 (Monitor)]>[SCSP イベント (SCSP Events)]ページにはユーザーセッションは正しく記録されません。ユーザーセッションのログインはページに記録されますが、ログアウトの情報は記録されません。
- **SCSP** 監査ログ保持の設定をした後にアプライアンスを再起動すると、監査ログ保持の設定は保持されません。アプライアンスの再起動後、監査ログ保持をリセットする必要があります。
- 以前に使用されたアプライアンスに **NetBackup Appliance** の新しいバージョンをインストールすると、アプライアンスの構成中に次のエラーメッセージを受信することがあります。

```
Cannot recover the existing MSDP partition because the NetBackup
disk pool and storage unit could not be determined. ...
- [Error] Could not configure the appliance.
```

このエラーは、既存のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) のディスクプールの名前に + が含まれている場合に発生します。この問題が発生した場合、ディスクプール名に + が含まれないようにディスクプール名を変更し、手動で **MSDP** パーティションを構成する必要があります。Manage > Storage > Resize コマンドを使用してパーティションを構成します。

NetBackup Appliance の一般的な注意

次のリストに、**NetBackup** アプライアンスの一般的な使用に関する注意事項と既知の問題を示します。

- **NetBackup Appliance** のこのリリースでは、アプライアンスがバックアップホストまたはリカバリホストとして使用された場合は、レプリケーションディレクタ (RD) リストアで動的マルチパス (DMP) がサポートされません。
- **RAID** コントローラアダプタの学習サイクルでは、2 つの電子メール警告を受信します。**RAID** ポリシーが書き戻しモードから writeThrough モードに変更された際の警告と、**RAID** ポリシーが writeThrough モードから書き戻しモードに戻った際の警告です。ただし、このリリースでは、**BBU** が失敗ステータスの場合は、1 つ目の電子メールのみが送信されます。2 つ目の警告は、サイクルが完了するとポリシーが書き戻しモードに戻らないので送信されません。
- アプライアンスのバッテリーバックアップ装置 (BBU) が再設定状態の場合、**BBU** の状態を示す電子メール警告が送信されます。ただし、このリリースでは電子メール警告は送信されません。

NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意

次のリストに、NetBackup アプライアンス Web コンソールと NetBackup Appliance のシェルメニューに関する注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスインターフェースには、IPv6 アドレスからアクセスすることはできません。
- ソフトウェアの更新が正常に完了しなかった場合のロールバック処理中に、NetBackup アプライアンス Web コンソールに[アプライアンスは 2.6.0.4 でアップグレード状態にありません (The appliance is 2.6.0.4 and not in upgrade state)]という状態が一時的に表示されることがあります。また、進行バーには 100% 完了と示されます。この状況では、アップグレードは正常に完了していません。
アプライアンスは直後に再起動しますが、Web コンソールには更新状態もプロンプトも表示されません。再起動を待って完了すると、アプライアンスに再接続できます。アップグレード中に NetBackup Appliance のシェルメニューで UpgradeStatus コマンドを実行すると、詳細情報を取得できます。
- NetBackup アプライアンス Web コンソールに、OpenLDAP および Active Directory のユーザー名が大文字と小文字を区別して表示されますが、NetBackup Appliance のシェルメニューでは区別されません。
- NetBackup Appliance のシェルメニューの Main > Settings > Security > Authentication > LDAP > Certificate set path name コマンドでは、証明書のパス名がハイフンを含んでいる場合、受け入れられません。ハイフンが含まれるパス名は、NetBackup アプライアンス Web コンソールで受け入れられます。
- NetBackup アプライアンス Web コンソールの[設定 (Settings)]>[通知 (Notification)]>[登録 (Registration)]ページから担当者の電子メールアドレスを複数追加することができません。ただし、NetBackup Appliance のシェルメニューからは、担当者の電子メールアドレスを複数追加できます。シェルメニューから複数の電子メールアドレスを追加するには、Settings > Alerts > CallHome Registration Email コマンドを実行し、複数の電子メールアドレスを、セミコロンで区切って入力します。
- このリリースでは、NetBackup Appliance シェルメニューの[メイン (Main)]>[監視 (Monitor)]>[失敗した NetBackup ジョブ (NetBackup Jobs Failed)]コマンドを実行した場合、失敗した一部のジョブの情報が表示されません。[メイン (Main)]>[監視 (Monitor)]>[すべての NetBackup ジョブ (NetBackup Jobs All)]コマンドを使うと、各ジョブの状態列を参照して失敗したジョブを確認することができます。
- アプライアンスがプロビジョニングされていない場合は、NetBackup アプライアンス Web コンソールランディングページに次の通知が表示されます。
「コールホームサービスが機能していません。システムがコールホームサーバーでプロビジョニングされているかシマンテック社のサポートにご連絡ください。」
ただし、この通知は表示されない場合もあります。アプライアンスの日付と時刻がネットワークタイムプロトコル (NTP) ごとに設定されていない場合、ランディングページに

は日付と時刻を更新するための通知のみが表示されます。NTP ごとに日付と時刻を設定すると、コールホーム通知が表示されます。

インストールと構成の注意

次のリストに、アプライアンスのインストールと構成に関する注意事項と既知の問題を示します。

- クライアント側の重複排除操作が、状態エラー **83** が表示され失敗することがあります。
アプライアンスを構成するときに DNS を使用している場合、すべてのアプライアンスおよびマスターサーバーのネットワーク名が DNS 解決可能 (完全修飾ホスト名 (FQHN) および短縮名) であることを確認してください。DNS を使用しない場合、構成するアプライアンスに対する適切なホストエントリを入力していることを確認してください。
DNS を設定せずにアプライアンスを構成し、`/etc/hosts` ファイルに FQHN のマップに対し解決する IP アドレスがない場合、状態エラー **83** が表示される可能性があります。アプライアンスメディアサーバーの `required_interface` 変数で設定された値が短縮名で、完全修飾ホスト名でない場合、クライアントが正しく解決しない場合があります
この問題を回避するには、その DNS および `/etc/hosts` ファイルが存在し、両方のファイルが解決可能なホスト名であることを確認します。
このエラー条件についての詳細は、シマンテック社のサポート Web サイトの次の技術メモを参照してください。
<http://www.symantec.com/docs/TECH179320>
- 共有ディレクトリにソフトウェアの更新をコピーする場合、コピーが完了するまでは他のコマンドを開始しないでください。コピー処理中にコマンドを実行すると、ソフトウェアの更新がリストに登録され利用可能になったことが表示される場合があります。ただし、そのソフトウェアの更新をインストールすると失敗する場合があります。
このような問題が起らないよう、コピー処理が完了するまでは他のコマンドを実行しないでください。
- メディアサーバーの初回構成時に「ライセンスがありません」というメッセージを受信した場合、この電子メールを無視しても安全です。この電子メールはホスト名の構成時に送信されます。新しいホスト名への変更時にライセンスキーファイルの名前が変更され、警告機構で一時的にライセンスを特定できなくなります。構成が完了すると、ライセンスは正しく設定されます。ライセンスキーは、NetBackup アプライアンス Web コンソールの [管理 (Manage)] > [ライセンス (License)] ページまたは NetBackup Appliance のシェルメニューの `Main > Manage > License > List` コマンドで確認できます。

アップグレードとロールバックの注意

次のリストに、アップグレードとロールバックに関する注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスサーバーの現在のバージョンが **2.5** より前の場合は、**NetBackup Appliance 2.6.0.4** に直接アップグレードできません。最初にバージョン **2.5** にアップグレードしてから **2.6** 製品ラインにアップグレードする必要があります。
- アプライアンスの現在のバージョンが **2.5** で、このバージョンのアプライアンスソフトウェアにアップグレードする場合、**NetBackup Appliance** のシェルメニューを使用してソフトウェアの更新をインストールする必要があります。**NetBackup** アプライアンス **Web** コンソールを使用して、ソフトウェアの更新をダウンロードできます。ただし、**Web** コンソールを使用してアップグレードをインストールすることはできません。ソフトウェアの更新のインストールには、シェルメニューを使用してください。
- **NetBackup Appliance 2.5.x** からこのバージョンにアップグレードするときに、メディアサーバー重複排除プール (**MSDP**) は変換の完了に **13 %** の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- このリリースの **NetBackup Appliance** では、マスターサーバーアプライアンスからメディアサーバーアプライアンスへのリモートアップグレードはサポートされていません。メディアサーバーアプライアンスのアプライアンスソフトウェアをこのバージョンにアップグレードするには、各メディアサーバーアプライアンスに「**admin**」でログインし、アップグレード手順を実行します。
- **2.5.x** からのアップグレードが正常に完了または正常にロールバックされた後、システムドライブの再構築が自動的に始まります。この処理は通常、**3 ~ 4** 時間程度ですが、システムの負荷によってはさらに時間がかかる場合があります。この処理中に、ドライブを取りはずさないでください。
再構築処理がシステム負荷に基づいた予測よりも著しく時間がかかる場合は、不良なドライブがある可能性があります。シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。
- 未設定のアプライアンスを **2.5.x** からこのバージョンの **NetBackup Appliance** にアップグレードする場合は、アップグレードではなくアプライアンスの再イメージングを実行します。未設定のアプライアンスの再イメージング時にホスト名や IP アドレスなどのすべての設定が失われ、ストレージはリセットされます。
- 未設定のアプライアンスを **2.5.x** からこのバージョンの **NetBackup Appliance** にアップグレードすると、アプライアンスに工場出荷時インストールのチェックポイントが設定されます。設定済みアプライアンスを **2.5.x** からアップグレードした場合は、アップグレード後のチェックポイントが設定されます。

VMware に関する注意事項

次のリストに、VMware に関する注意事項および既知の問題を示します。

- 同時に実行される VM のリストアは、アプライアンスを SAN のリストアホストとして使用すると失敗する可能性があります。SAN のトランスポートモードを使用して複数の VM を同時にリストアすると、ジョブステータスログに、次のようなメッセージが記録される場合があります。

```
4/19/2012 1:16:14 PM - Error bptm(pid=30649) cannot write
data to socket, Connection reset by peer
4/19/2012 1:16:14 PM - Info bptm(pid=30648) EXITING with status 24
```

シマンテック社では、この問題について VMware のサポート要求: 12172237605 を発行しました。

- 次を行ってみてください。
 [仮想マシンオプション (Virtual Machine Options)] ダイアログボックスで、リストアした仮想ディスク形式で[シンプロビジョニング (Thin Provisioning)]を選択してリストアを再試行します。
- それでも失敗する場合には、[リカバリオプション (Recovery Options)] ダイアログでトランスポートモードに[NBD]を選択して、再度リストアを行ってみてください。
- NetBackup Appliance のこのリリースでは、VM インスタントリカバリに Windows ベースの VMware リカバリホストが必要です。このホストは、インスタントリカバリを開始するために必要なオブジェクトを識別する必要があります。リカバリホストは、データ移動には使用されません。vCenter へのネットワーク接続があれば、環境内に NetBackup クライアント (物理または仮想) がインストールされている任意の Windows ベースのシステムを使用できます。

VMware リカバリホスト (NetBackup クライアント) は Windows ベースにする必要がありますが、バックアップを作成した VMware バックアップホストは Windows、Linux、または NetBackup Appliance ベースにできます。バックアップホストが Linux の場合は、nbrestorevm コマンドの -vmproxy オプションを使用して Windows ベースの VMware リカバリホストを指定する必要があります。詳しくは、『Symantec NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

国際化とローカライゼーションの注意

次のリストに、国際化とローカライゼーションに関する注意事項と既知の問題を示します。

- NetBackup Appliance のシェルメニューのユーザーインターフェースはマルチバイト文字を入力したり修正できないので、どの言語にもローカライズされていません。
- アプライアンスの構成を完了した後に、英語以外の文字が NetBackup Appliance のシェルメニューユーザーインターフェースで表示されません。
 この問題は、NetBackup Appliance の初期構成中に、NetBackup アプライアンス Web コンソールを使うと起きます。[登録 (Registration)] ページで、アプライアンスの登録で英語以外の文字を入力すると、英語以外の文字がシェルメニューのインターフェースに表示されません。

- 英語版以外の Windows システムに NetBackup-Java 管理コンソールをインストールして NetBackup アプライアンス内部の NetBackup サーバーを管理する場合に、NetBackup サーバーにログインしようするとコンソールがハングアップする可能性があります。この問題を避けるには、次の回避策を講じます。

- NetBackup-Java 管理コンソールをインストールしている Windows システムの `install_path¥Java¥setconf.bat` ファイルを修正して、適切なエンコードで `NBJAVA_FILE_ENCODING` パラメータを設定します。SystemLocale コマンドを使ってアプライアンスシステムで以前に設定したエンコードと同じエンコードを使います。

コード名を判断するには、次の Web サイトで Supported Encodings 文書の Canonical Name for java.nio API and java.lang API 列を参照してください。

[Oracle Supported Encodings 文書](#)

たとえば、アプライアンスシステムで `zh_CN.utf8` や `ja_JP.utf8` のような UTF-8 ロケールを設定した場合は、`java.nio API` と `java.lang API` の正規名は UTF8 になります。

次のように `install_path¥Java¥setconf.bat` ファイルの SET

`NBJAVA_FILE_ENCODING` パラメータをコメント解除し、(この例では) UTF8 を指定します。

```
REM SET NBJAVA_FILE_ENCODING=
```

次のように指定します。

```
SET NBJAVA_FILD_ENCODING=UTF8
```

SystemLocale コマンドについて詳しくは、『Symantec NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』または『Symantec NetBackup Appliance 管理者ガイド』の「アプライアンス Web コンソールのログインページについて」の節を参照してください。

NetBackup サポートユーティリティについて

NetBackup Appliance は NetBackup の問題の診断に役立つ次のサポートユーティリティを提供します。

- 「[NBDNA \(NetBackup Domain Network Analyzer\)](#)」
- 「[NetBackup サポートユーティリティ \(nbsu\)](#)」

NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)

NBDNA ユーティリティを NetBackup プライマリまたはセカンダリアプライアンスで実行して、次のタスクを実行することができます。

- ネットワーク関連の問題を解決するための NetBackup ドメイン構成の識別
- NetBackup パフォーマンス問題の識別

- ホスト名参照に関する動作が機能するかどうかの確認
- **NetBackup** ドメイン内でのロールに基づき、**NetBackup** ホストとアプライアンス間の接続性が確立され、正しく機能するかの確認
- シマンテック社のテクニカルサポートのためのレポートの生成

NBDNA ユーティリティは出力で次の形式の情報を提供します。

```
Running audit as Media Server.
```

```
Collection Version: x.x
  Collection Time: Tuesday, October 7, 2010 at 19:17:11 PM
    NBU Release: NetBackup-SuSE2.6.16 7.0.1.5
      NBU Version: 7.0.1.5
NBU Major Version: 7.0
NBU Minor Version: 1
  NBU Patch Type: GA
  NBU GlobDB Host: "host name"
    Is GlobDB HOST? No
      UNAME:
        Hostname: sample.name.symantec.com
  Host's Platform: Linux
  Perl Architecture: Linux
```

```
Initialization completed in 14.040101 seconds.
```

```
Brief Description of What It Does (for type 1):
```

```
-----
```

- 1) Perform basic self checks.
- 2) Check connectivity to Master (and EMM) server.
- 3) If SSO configured, get list of media servers sharing devices.
- 4) Get list of all clients which could send data here for backup.
- 5) Test NBU ports for basic connectivity between media servers sharing devices.
- 6) Test NBU ports for basic connectivity between media server and clients it backs up.
- 7) Perform service level tests for phase 2
- 8) Capture data for reports; save reports.
- 9) Save data to report files.

```
-----
```

```
Discovering and mapping the NetBackup domain network for analysis by extracting data from current system's configuration.
```

```
(To see more details, consider using '-verbose' switch.)

Probing Completed in 4.695464 seconds.

Initiating tests...

COMPLETED. Thank you for your patience.

/log/dna/sample.name.symantec.com.NBDNA.20100907.191711.zip
Archive created successfully!
Return /log/dna/sample.name.symantec.com.NBDNA.20100907.191711.zip
to Symantec Support upon request.
```

NetBackup サポートユーティリティ (nbsu)

nbsu ユーティリティを使うと、NetBackup とオペレーティングシステムについて適切な診断情報を収集できます。『Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド』では、このユーティリティを使う状況およびその実行方法について説明しています。

その他の利用可能なサポートについて

NetBackup Appliance の追加のサポートが必要になった場合、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.symantec.com/business/support/

NetBackup Appliance 固有の情報は、次の場所にあります。

go.symantec.com/nba

ログファイルの使用について

問題を定義してトラブルシューティングするときは、潜在的に有益な情報の取得を常に試みてください。NetBackup Appliance では、ハードウェア、ソフトウェア、システム、パフォーマンス関連データを取得できます。こうしたログファイルは、アプライアンスの実行状態、未構成ボリュームまたはアレイなどの問題の有無、温度に関する問題、バッテリーが見つからないなどの情報を取得します。こうしたログファイルは、特定のディレクトリに保存され、次の方法を使用してアクセスできます。

表 3-1 に、アプライアンスの各種ログにアクセスするために使用できる方法を示します。

表 3-1 ログファイルの表示

取得元	方法	収集されるログ
NetBackup アプライアンス Web コンソール	NetBackup アプライアンス Web コンソールの[ログファイルを収集 (Collect Log files)]ウィザードを使用して、アプライアンスからログファイルを収集できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup のコピーログ ツールが作成するログ (nbcplogs) ■ 高可用性、ハードウェア、イベントログが記録されるアプライアンスのログ ■ オペレーティングシステムのログ ■ メディアサーバー重複排除プール (MSDP) 関連のすべてのログ ■ NetBackup アプライアンス Web コンソール関連のすべてのログ ■ NetBackup およびオペレーティングシステムについての診断情報 ■ ハードウェアおよびストレージデバイスのログ
NetBackup アプライアンス Web コンソール	NetBackup アプライアンス Web コンソールの[モニター (Monitor)]> [SCSP 監査ビュー (SCSP Audit View)]画面を使用して、アプライアンスの監査ログを取得できます。	NetBackup Appliance の監査ログ
NetBackup Appliance のシェルメニュー	Main > Support > Logs > Browse コマンドを使用して、LOGROOT/>プロンプトを開きます。ls や cd のようなコマンドを使用して、アプライアンスのログディレクトリの操作や各種ログの取得を行えます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup Appliance の構成ログ ■ NetBackup ログ、Volume Manager ログ、openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ ■ NetBackup Appliance のオペレーティングシステム (OS) インストールログ ■ NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェース ログと NetBackup Web サーバーログ ■ NetBackup 52xx アプライアンスのデバイスログ

取得元	方法	収集されるログ
NetBackup Appliance の シェルメニュー	Main > Support > Logs > VxLogView Module ModuleName コマンドを実行して、 NetBackup Appliance VxUL (統合) ログにアクセスすることができます。Main > Support > Share Open コマンドを実行し、デスクトップを使用して、VxUL ログのマップ、共有、コピーを行うこともできます。	NetBackup Appliance 統合ログ <ul style="list-style-type: none"> ■ All ■ CallHome ■ Checkpoint ■ Commands ■ Common ■ Config ■ CrossHost ■ Database ■ Hardware ■ HWMonitor ■ Network ■ RAID ■ Seeding ■ SelfTest ■ Storage ■ SWUpdate ■ Trace
NetBackup Appliance の シェルメニュー	Main > Support > DataCollect コマンドを使用して、ストレージデバイスログを収集できます。	NetBackup 5xxx ストレージデバイスログ
NetBackup Java アプリケーション	NetBackup Java アプリケーションに関する問題が発生した場合、このセクションのスクリプトを使って、サポートに連絡するために必要な情報を集めることができます。	NetBackup Java アプリケーションに関するログ

リリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- [現在のリリースの内容について](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.0.4 のリリース内容](#)

現在のリリースの内容について

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。このセクションには、NetBackup アプライアンスのこのリリースで解決された既知の問題が示されています。

メモ: この章では、NetBackup Appliance 限定の修正のみを説明します。NetBackup アプライアンス 2.6.0.4 リリースには、NetBackup の 7.6.0.4 に含まれるすべての修正も含まれます。NetBackup 7.6.0.4 の修正の完全なリストについては、シマンテック社のサポート Web サイトの『NetBackup 7.6.0.4 リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7450>

NetBackup Appliance 2.6.0.4 リリースは、NetBackup Appliance 2.6.0.3 リリースのアップグレードです。以前のリリースの修正や拡張すべてを参照するには、シマンテック社のサポート Web サイトの以下のリリースノート文書を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup 7.6.0.4 は、NetBackup Appliance 2.6.0.4 リリースによりインストールされた NetBackup ソフトウェアのバージョンです。NetBackup 7.6.0.4 の新しい機能、拡張および修正については、シマンテック社のサポート Web サイトの文書 NetBackup 7.6.0.4 リリースノートに記載しています。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7450>

また、NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、シマンテック社のサポート Web サイトの NetBackup サーバー 7.x ハードウェア互換性リストを参照してください。

www.netbackup.com/compatibility

NetBackup Appliance 2.6.0.4 のリリース内容

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。一部の問題は特定、解決されました。EEB の形で利用可能です。次のリストでは、これらの問題は識別のための Etrack 番号を含みます。このドキュメントが送信された後で、追加の EEB がリリースされている可能性があります。このセクションにある解決した問題について詳しくは、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) を参照してください。SORT にアクセスするには、次の Web サイトに移動します。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

次のリストには、解決された既知の問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

- 保守ユーザーによって試行されたログインが失敗した場合、アプライアンスログに記録されませんでした。
- SSH サーバーにアルゴリズムに関連する脆弱性が検出され、2.6.0.4 で修正されました。
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) がアプライアンスで設定され、SNMP トラップが誤ったタイムスタンプで送信されました。タイムスタンプには、現在の時刻ではなくシステムの稼働時間が表示されました。2.6.0.4 で、タイムスタンプは正しく表示されるようになりました。
- 2.6.0.1 からのアップグレードが、利用可能な MSDP 領域が不足しているために失敗しました。アプライアンスで、利用可能な MSDP 領域を調べてからアップグレードに進むようになりました。
- インストールでシステムにすでに存在する ID でグループ ID を作成しようとするとアップグレードが失敗しました。
- Nessus スキャナの脆弱性によって、サーバーメッセージブロック (SMG) 署名が[自動 (auto)]から[必須 (mandatory)]に変更されました。また、ネットワークタイムプロトコル (NTP) コマンド monlist が無効になりました。
- 特定のファイル権限がセキュリティ向上のために変更されました。
- Pluggable Authentication Module (PAM) ポリシーキットのファイル権限と所有権がセキュリティ向上のために変更されました。
- HTTP 応答ヘッダーにアプリケーションサーバー名が開示されました。

- ホットスペアディスクが移行状態になったとき、失敗状態として報告されたためアラートが生成されました。移行状態は失敗状態として扱われなくなりました。
- アドオンをロールバックまたはアンインストールする場合、ユーザーは `Manage > Software > List AddOns` コマンドの出力結果に表示されるアドオン名の末尾に `.rpm` を追加する必要がありました。ユーザーは、コマンドの出力結果に表示されるとおりのアドオン名を入力できるようになりました。
- **EEB Etrack 番号: 3526622**
インポート後、バックアップイメージの[ファイル数(number of files)]カウンタにソースとターゲットのマスターサーバーで異なる値が表示されます。
- **EEB Etrack 番号: 3395880**
システムの再起動後、**5020** アプライアンスはターゲットモードからイニシエータモードに戻ります。

関連ドキュメント

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance のマニュアルについて](#)

NetBackup Appliance のマニュアルについて

次に挙げるマニュアルを参照すると、アプライアンスの正常なインストール、設定、使用に役立ちます。これらすべてのマニュアルは、次の URL でアクセスできるシマンテック社のサポート Web サイトで入手できます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

表 B-1 NetBackup Appliance のマニュアル

ガイド	説明
Symantec NetBackup™ Appliance ハードウェアの取り付けと初期構成 ガイド	<p>このガイドは次の情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ アプライアンスハードウェアの物理的なレイアウトの紹介。■ 開梱の手順、環境条件、安全上の注意事項などの設置準備手順。■ ハードウェア構成手順 このセクションは、ラックにアプライアンスを設置し、アプライアンスケーブルを接続するために必要な手順について説明します。■ ソフトウェア構成手順 このセクションは、NetBackup アプライアンス Web コンソールから、または NetBackup Appliance シェルメニューからの構成プロセスについて説明します。

ガイド	説明
Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド	『Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド』には次の種類の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 配備情報 ■ アプライアンスの管理 ■ 監視情報
Symantec NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド	『Symantec NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド』には、NetBackup Appliance シェルメニューから使うことができるコマンド一覧が掲載されています。
Symantec NetBackup Appliance リリースノート	このマニュアルでは、NetBackup Appliance のバージョン 2.6.0.4 について説明しています。リリース中の新機能に関する簡単な説明、リリース更新に適用される操作の注意、既知の問題が含まれます。
Symantec NetBackup Appliance トラブルシューティングガイド	このマニュアルには NetBackup Appliance に関する最新のトラブルシューティング情報が記載されています。
Symantec NetBackup 容量計画とパフォーマンスチューニングガイド	この文書には、NetBackup Appliance およびバックアップ環境を最適化する方法に関する情報が記載されています。これにより、バックアップ要件を分析し、各自のニーズに最適なシステムを設計できます。
Symantec NetBackup Appliance セキュリティガイド	このドキュメントには NetBackup Appliance のセキュリティ機能、およびこれらの機能を使ってアプライアンス環境の安全性を確保するための方法が記載されています。
Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices	『Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』のマニュアルはこの製品に含まれているサードパーティソフトウェアをリストし、サードパーティソフトウェアの属性を記載しています。 このマニュアルは次の Web サイトから利用可能です。 http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/

アプライアンスハードウェアについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

- Symantec NetBackup 5220 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明
- Symantec NetBackup 5230 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明
- Symantec NetBackup 5220 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 安全とメンテナンスガイド
- Symantec NetBackup 5230 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 安全とメンテナンスガイド